

## 令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

#### 4 本校の実施状況

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 51人 | 算数 | 51人 | 理科 | 51人 |
| 第5学年 | 国語 | 57人 | 算数 | 57人 | 理科 | 57人 |

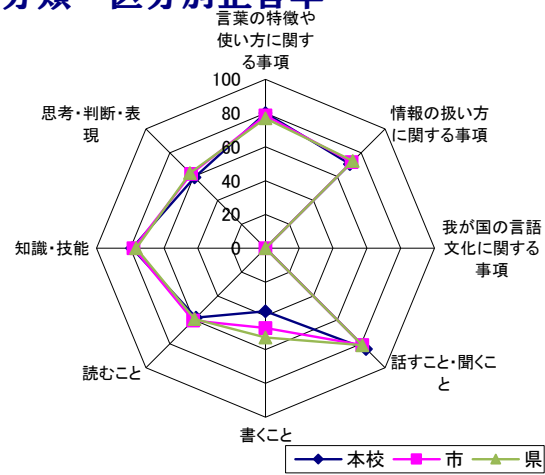
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 80.0 | 78.6 | 76.9 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 70.6 | 72.2 | 73.1 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
|     | 話すこと・聞くこと        | 84.3 | 81.0 | 81.1 |
|     | 書くこと             | 37.3 | 47.2 | 52.8 |
|     | 読むこと             | 58.1 | 60.5 | 59.3 |
| 観点  | 知識・技能            | 79.0 | 78.0 | 76.5 |
|     | 思考・判断・表現         | 59.4 | 62.3 | 63.1 |



★指導の工夫と改善

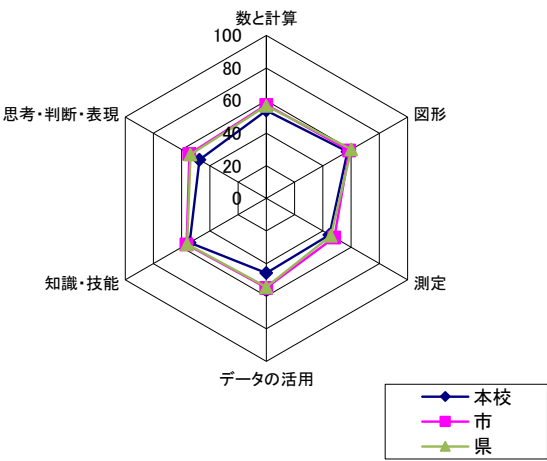
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                         | 今後の指導の重点                                                                                                                                                           |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 校内正答率は80.0%で、市の平均より1.4ポイント高い。<br>○「漢字を正しく読む(育てた)」問題の正答率は、100.0%で、市の平均よりも8.1ポイント高い。<br>●ローマ字の読み方を問う問題の正答率は64.7%で、市の平均よりも12.2ポイント低い。                             | ・今後も漢字の確認テストを行って復習の機会を設けたり、日記や作文などで実践的に漢字を使う場を設けたりする。<br>・語彙力を高めるために、引き続き読書を推奨したり、類義語・対義語の問題を作って出し合う活動を設けたりする。<br>・一人一台端末のローマ字入力の際に、手元に準備したローマ字表を活用してタイピングの練習をさせる。 |
| 情報の扱い方にに関する事項    | 校内正答率は、70.6%で、市の平均より1.6ポイント低い。<br>●「国語辞典に載っている順番として正しいものを選ぶ」問題の正答率は70.6%で、市の平均よりも1.6ポイント低い。                                                                    | ・積極的に国語辞典を活用する機会を設け、その際に濁点や半濁点がついた時の記載順にも意識をもたせる。<br>・読書を推奨し、語彙力を高めたり、言葉の意味が複数あることに気付かせたりしていく。                                                                     |
| 話すこと・聞くこと        | 校内正答率は、84.3%で、市の平均よりも3.3ポイント高い。<br>○「話し合いで自分の考えを理由を挙げながらまとめる」問題の正答率は98.0%で、市の平均よりも17.2ポイント高い。<br>●「司会者の話し方の工夫を説明した文として正しいものを選ぶ」問題の正答率は72.6%で、市の平均よりも8.5ポイント低い。 | ・根拠を明確にして自分の考えを伝え合う授業を展開していく。<br>・児童が司会を務める話し合い活動を行う際には、司会者の役割を確認し、工夫にはどんなものがあるかを考えさせる。                                                                            |
| 書くこと             | 校内正答率は37.3%で、市の平均より9.9ポイント低い。<br>●「注意する4つの点をおさえて意見文を書く」問題の無回答率が27.5%で、市の平均より5.0ポイント低い。<br>●「指定された長さで文章を書く」問題の正答率は41.2%で、市の平均よりも10.8ポイント大きく下回った。                | ・無回答の原因として、時間を意識することができず最後の設問に至らなかったことが挙げられるため、普段の学習においても時間を意識して取り組めるように指導していく。<br>・文章を書く際に、行数や段落などの条件を意識し、自分の考えの理由を明確にして、取り組むよう助言する。                              |
| 読むこと             | 校内正答率は58.1%で、市の平均より2.4ポイント低い。<br>○「登場人物の気持ちの変化を具体的に想像する」問題の正答率は64.7%で、市の平均より7.8ポイント高い。<br>●「文章の中心となる語や文を見つけて要約する」問題の正答率は、11.8%で、市の平均よりも11.8ポイント低い。             | ・物語文の学習では、叙述を基に、登場人物の性格や登場人物同士の関係、場面の様子について捉えられるように指導していく。<br>・説明文を読む際に、指示語とそれを表す内容について明らかにしたり、情報と情報を結び付けながら読んだりする活動を意識的に取り入れる。                                    |

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 53.9 | 57.4 | 56.9 |
|     | 図形       | 57.4 | 58.7 | 60.1 |
|     | 測定       | 44.6 | 48.1 | 45.7 |
|     | データの活用   | 45.8 | 54.9 | 54.3 |
| 観点  | 知識・技能    | 54.4 | 56.6 | 56.2 |
|     | 思考・判断・表現 | 47.5 | 54.5 | 53.8 |



★指導の工夫と改善

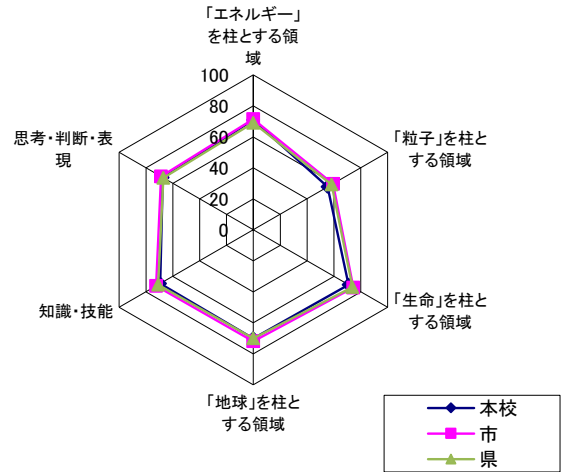
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                        | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                 |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 校内正答率は、53.9%で、市の平均より3.5ポイント低い。<br>●「余りの考えをもとに、計算の間違いを説明する」問題の正答率は9.8%で、市の平均より15.2ポイント低い。<br>●「□を使ったわり算の式に合った文章を選ぶ」問題の正答率は41.2%で、市の平均より21.1ポイント低い。             | ・今後も基礎・基本の確実な習得を目指し、朝の学習やステップアップシート、タブレット端末を活用した学習を継続していく。<br>・授業内で設問に対して解き方を書いて説明する機会を設けたり、グループ活動などで自分の考えを伝え合う場を設定したりする。<br>・計算ができるようにするだけでなく、そこにたどり着くまでの過程を大切に授業を展開する。 |
| 図形     | 校内正答率は、57.4%で、市の平均より1.3ポイント低い。<br>○「正三角形を作図する」問題の正答率は82.4%で、市の平均より6.9ポイント高い。<br>●「二等辺三角形になる点を選ぶ」問題の正答率は23.5%で、市の平均より9.6ポイント低い。                                | ・作図の手順やコンパス・三角定規の使い方を正しく理解させる。<br>・ICT機器を活用し、動画を使った学習を取り入れ、視覚的に捉えられるよう支援の充実を図る。<br>・基礎的な知識を応用して問題を解くことで、図形の性質を活用する力を伸ばす。                                                 |
| 測定     | 校内正答率は、44.6%で、市の平均より3.5ポイント低い。<br>○「重さを、基準量のいくつ分かで考え、説明する」問題の正答率は51.0%で、市の平均より4.3ポイント高い。<br>●「単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短い説明する」問題の正答率は41.2%で、市の平均より12.1ポイント低い。 | ・天秤など実物に触れさせる算数的活動を取り入れて理解を図る。<br>・1km＝1000m、1kg＝1000g、1t＝1000kgのようなメートル法のしくみを単位の意味から理解させたり、生活の中から問題を見つけて問題を作ったりして、児童の学習意欲を高める。                                          |
| データの活用 | 校内正答率は、45.8%で、市の平均より9.1ポイント低い。<br>●「二次元の表から読み取ることができる、正しい傾向を選ぶ」問題の正答率は47.1%で、市の平均より13.0ポイント低い。<br>●「目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ」問題の正答率は33.3%で、市の平均より10.1ポイント低い。 | ・それぞれの表やグラフが、何を表しているかを読み取り、示されたテーマについて適切な表やグラフを選び、説明する力を身に付ける。<br>・算数はもとより他教科においても、実際に表やグラフを読んだり書いたりする活動を取り入れ、様々な表やグラフを読み取る力を身に付けていくようにする。                               |
|        |                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                          |

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 70.9 | 71.4 | 69.1 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 55.4 | 59.3 | 58.3 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 70.9 | 74.5 | 73.8 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 70.1 | 72.0 | 70.1 |
| 観点  | 知識・技能          | 69.4 | 72.5 | 70.9 |
|     | 思考・判断・表現       | 67.5 | 68.8 | 67.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                         |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 校内正答率は70.9%で、市の平均より0.5ポイント低い。<br>○「風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなることを答える」問題の正答率は80.4%で、市の平均より6.0ポイント高い。<br>○「磁石につくものの条件について正しく考察できている人物を選ぶ」問題の正答率は62.8%で、市の平均より4.5ポイント高い。<br>●「複数の鏡ではね返した日光を重ねた場所のうち、同じ温度の箇所を選ぶ」問題の正答率は51.0%で、市の平均より9.1ポイント低い。<br>●「声が一人にだけ聞こえた点から、糸電話をつまんだ場所を推測し、と声が聞こえた人物を選ぶ」問題の正答率は58.8%で、市の平均より7.2ポイント低い。 | ・光や音の性質について、身近な物を使いながら調べる実験を行うことで、結果を比較しながら差異点や共通点を見出し、性質を捉えられるようにする。<br>・「輪ゴムの数と車が動く距離の関係を適切に表した棒グラフを選ぶ」問題の正答率が54.9%と高くなかったことから、棒グラフの読み取り方や関係性を適切に読み取れるよう、棒グラフの読み取りの学習を取り入れていく。 |
| 「粒子」を柱とする領域    | 校内正答率は55.4%で、市の平均より3.9ポイント低い。<br>○「粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ」問題の正答率は33.3%で、市の平均より6.3ポイント高い。<br>●重さを揃えた異なる材質のおもりのうち最も体積の大きいものを答える」問題の正答率は15.7%で、市の平均より21ポイント低い。                                                                                                                                                    | ・物の形や体積と重さの関係について考えたり、説明したりする活動を充実させ、自分の言葉で表現できるように指導していく。<br>・物質によって体積は等しくても重さが違うことを、知識だけではなく、体験を通して理解できるようにしていく。                                                               |
| 「生命」を柱とする領域    | 校内正答率は70.9%で、市の平均より3.6ポイント低い。<br>●「モンシロチョウのたまごと幼虫について適切に説明した文章を選ぶ」問題の正答率は84.3%で、市の平均より6.9ポイント低い。<br>●「昆虫のあしがついていない部分を答える」問題の正答率は80.4%で、市の平均より4.4ポイント低い。<br>●「モンシロチョウとトンボの育ち方を比較し、差異を答える」問題の正答率は39.2%で、市の平均より3.6ポイント低い。                                                                                                | ・実物を観察できる環境を整えたり、映像資料を活用したりすることで、生物の実態を正しく理解できるように指導する。<br>・すべての設問について市の平均より正答率が低かったため、朝の学習や宿題等を活用し、復習を行うことで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていく。                                             |
| 「地球」を柱とする領域    | 校内正答率は70.1%で、市の平均より0.9ポイント低い。<br>●「方位磁針の正しい使い方を選ぶ」問題の正答率は60.8%で、市の平均より4.9ポイント低い。<br>●「太陽と日陰の位置関係と、日陰ができる方角の組み合わせを選ぶ」問題の正答率は74.5%で、市の平均より4.8ポイント低い。                                                                                                                                                                    | ・日常生活の自然現象に対して、疑問をもつことの大切さを指導していく。<br>・理科の実験用具の名称や、正しい使い方について、繰り返し指導していく。<br>・実験用具の使い方や方位について、視覚的にも分かりやすく捉えられるような環境を整えたり、実際に活用したりし、実感を伴って理解できるようにする。                             |

## 宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が86.8%で、市の平均より1.9ポイント高い。また、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が90.5%で、市の平均より12ポイント高い。学習の楽しさを感じることができるとともに、前向きに学習に取り組んでいる児童が多いことが伺える。今後も、学習形態を工夫するとともに、学習のよさや必要性を伝え、児童の学習意欲の向上を図っていく。

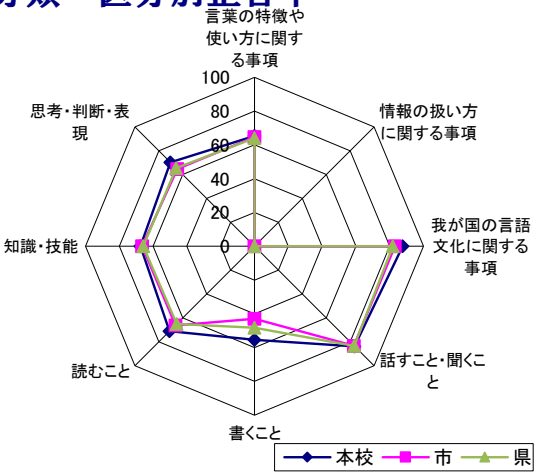
○「自分もっている能力を十分に発きたい」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が94.3%で、市の平均より3.3ポイント高い。また、「先生は学習のことについてほめてくれる」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が92.5%で、市の平均より1.7ポイント高い。さらに、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が94.3%で、市の平均より16.2ポイント高い。以上のことから、担任とのよい信頼関係が築けており、児童の自己有用感も高まっていることが分かる。今後も、継続して信頼関係を深め、児童の能力を十分に発揮できるよう支援していく。

●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が79.2%で、市の平均より3.5ポイント低い。話し合いには進んで参加している児童が多いので、まずは自分でじっくり考える時間を確保し、自分の考えに自信をもって話し合いに臨めるようにしたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 65.3 | 64.7 | 64.1 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 87.7 | 83.1 | 81.9 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 83.8 | 83.3 | 83.4 |
|     | 書くこと             | 55.3 | 42.8 | 48.2 |
|     | 読むこと             | 71.1 | 66.1 | 65.1 |
| 観点  | 知識・技能            | 67.5 | 66.5 | 65.9 |
|     | 思考・判断・表現         | 70.3 | 64.6 | 65.5 |



★指導の工夫と改善

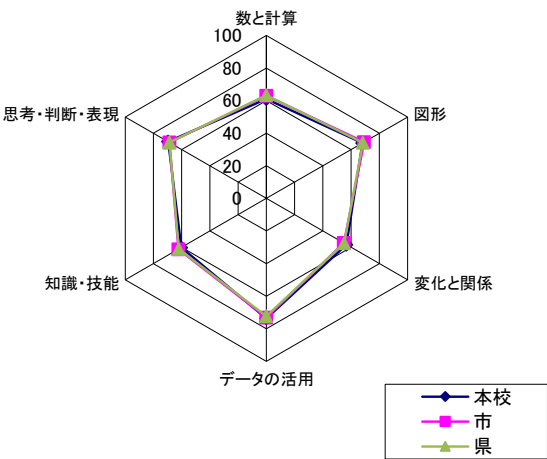
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                  | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                     |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 校内正答率は65.3%で、市の平均より0.6ポイント高い。<br>○「漢字の組み合わせを理解して、熟語の意味を捉える」問題の正答率は40.4%で、市の平均より7.4ポイント高い。<br>●「修飾・被修飾の関係を捉える」問題の正答率は7.0%で、市の平均よりも5.4ポイント低い。             | ・漢字については、AIDドリルや漢字ドリルで繰り返し練習して身に付けさせるとともに、生活の中で使えるようにしていく。<br>・修飾と被修飾の関係について、簡単な例を挙げ、図解から理解させたり、自ら修飾語のある短文を作ったりすることで身に付けさせていく。                                                               |
| 我が国の言語文化に関する事項   | 校内正答率は87.7%で、市の平均より4.6ポイント高い。<br>○「ことわざの意味を理解し、正しく使われている文を選ぶ」問題の正答率は87.7%で、市の平均より4.6ポイント高い。                                                             | ・朝の学習や家庭学習を利用して、ことわざ・慣用句の学習に取り組む。<br>・学校生活において、日常的にことわざ・慣用句に触れさせ、活用力を身に付けさせていく。                                                                                                              |
| 話すこと・聞くこと        | 校内正答率は83.8%で、市の平均より0.5ポイント高い。<br>○「意見の共通点や相違点に着目し、自分の考えをまとめる」問題では、正答率が87.7%で、市の平均より1.9ポイント高い。<br>●「参加者の発言に着目し、司会者の考えをまとめる」問題の正答率は75.4%で、市と比べて1.7ポイント低い。 | ・朝のスピーチや、話すこと・聞くことの単元のスピーチ(OD)を聞いた際に、話し手が伝えた内容を正しく理解してまとめる活動や、話し手に聞き返して確認する活動を取り入れる。<br>・聞き取りの問題については、必要なことを端的にメモして話の内容の全体を捉えることができるよう、指導や練習を行う。<br>・他者の意見を聞く際には、自分の意見と比べながら聞くことの意識付けを図っていく。 |
| 書くこと             | 校内正答率は55.3%で、市の平均より12.5ポイント高い。<br>○「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く」問題の正答率は52.6%で、市と比べて16.1ポイント高い。<br>○「内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く」問題の正答率は59.7%で、市よりも13.7ポイント高い。     | ・書き方の留意点(指定された字数や段落、キーワードを使うなど)を踏まえて文章を書く練習を行う。<br>・資料から読み取ったことをもとに文章を書く活動では、事実と自分の考えを分けて書くことを意識させる。                                                                                         |
| 読むこと             | 校内正答率は71.1%で、市の平均より5.0ポイント高い。<br>○「発言した人物を選ぶ」問題の正答率は80.7%で、市の平均より16.3ポイント高い。<br>●「登場人物の気持ちを具体的に想像する」問題の正答率は31.6%で、市の平均よりも2.5ポイント低い。                     | ・物語文を読む際には登場人物の行動や会話、心中表現などに着目するように指導していく。<br>・文章を読む際には、叙述をもとに文章の内容を捉えることを意識するよう指導していく。                                                                                                      |

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 61.0 | 63.0 | 63.3 |
|     | 図形       | 68.0 | 69.2 | 68.3 |
|     | 変化と関係    | 56.7 | 54.8 | 55.0 |
|     | データの活用   | 73.7 | 73.1 | 72.3 |
| 観点  | 知識・技能    | 60.2 | 62.3 | 62.1 |
|     | 思考・判断・表現 | 69.6 | 68.7 | 68.7 |



★指導の工夫と改善

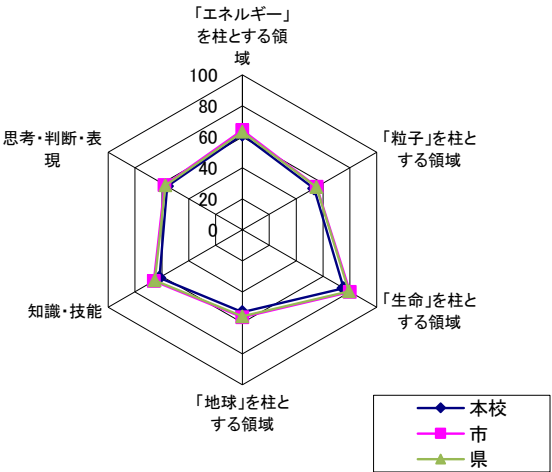
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                             | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                   |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 校内正答率は、61.0%で、市の平均より2.0ポイント低い。<br>○「小数第二位×整数の計算をする」問題の正答率は86.0%で、市の平均より9.0ポイント高い。<br>●「帯分数を、もとにする分数のいくつかで大きさを表す」問題の正答率は45.6%で、市の平均より13.3ポイント低い。                    | ・今後も計算ドリルなどを中心に、計算練習を取り入れ、基本的な計算力の向上を図っていく。<br>・小数や分数のしくみやそれを含む計算の仕方を再確認し、反復練習を行う。<br>・様々な文章問題に触れさせ、応用問題への対応力を高める指導を行う。                                                    |
| 図形     | 校内正答率は、68.0%で、市の平均より1.2ポイント低い。<br>○「三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める」問題の正答率は56.1%で、市の平均より2.2ポイント高い。<br>●「三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ」問題の正答率は66.7%で、市の平均より4.6ポイント低い。         | ・それぞれの図形の特徴や性質について整理したり、実際に作図したりすることを通して、定着を図る。<br>・実物を使って、2つの三角定規を組み合わせてできる角度を求める活動を繰り返す。                                                                                 |
| 変化と関係  | 校内正答率は、56.7%で、市の平均より1.9ポイント高い。<br>○「割合を使った長さの求め方を説明する」問題の正答率は47.4%で、市の平均より5.6ポイント高い。<br>●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」問題の正答率は45.6%で、市の平均より3.4ポイント低い。                       | ・割合を使った長さの求め方について、友だち同士で互いに説明し合う活動を取り入れる。<br>・数字を使った式だけでなく、○や□などの記号や言葉を使って式を立てる場面を授業の中でも取り入れられるようにすることで、伴って変わる2つの数量関係を捉えられるようにする。                                          |
| データの活用 | 校内正答率は、73.7%で、市の平均より0.6ポイント高い。<br>○「折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから読み取れることとして、正しいものを選ぶ」問題の正答率は71.9%で、市の平均より3.2ポイント高い。<br>●「折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る」問題の正答率は70.2%で、市の平均より1.6ポイント低い。 | ・ペアやグループ学習などを取り入れて、対話的学習により、グラフから読み取れることを列挙しながらグラフの見方を養う。<br>・算数はもとより他教科においても、実際にグラフを読んだり、作成したりする活動を取り入れ、様々なグラフを読み取る力を身に付けていくようにする。<br>・キーワードを使って、分かったことを文章表現する学習を取り入れていく。 |
|        |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                            |

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 61.4 | 64.3 | 63.2 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 53.3 | 55.4 | 55.1 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 75.4 | 80.1 | 79.3 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 53.1 | 56.4 | 55.8 |
| 観点  | 知識・技能          | 61.8 | 66.0 | 65.3 |
|     | 思考・判断・表現       | 56.1 | 57.9 | 57.4 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                  | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                                               |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 平均正答率は61.4%で、市の平均より2.9ポイント低い。<br>○「直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについて理解しているかどうかをみる」問題の正答率は59.7%で、市の平均同等であった。<br>●「図で示された回路における乾電池のつながりの名称を答える」問題の正答率は56.1%で、市の平均より11.2ポイント低い。                                                                                      | ・知識・技能の定着に課題が見られる。既習事項について繰り返し問題に取り組ませたり、視覚的に理解できるように、掲示物や映像資料等を活用したりすることで、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図っていく。<br>・記述で説明する問題では、選択式、短答の問題に比べて無回答率が高い。観察・実験の結果を考察したりまとめたりする際に、キーワードを示すなど工夫をし、科学的な言葉や概念を用いて自分の言葉でまとめ、表現できる力を育てていく。 |
| 「粒子」を柱とする領域    | 校内正答率は53.3%で、市の平均より2.1ポイント低い。<br>○「コ」の字形の金属板の角を熱した際、示温シールの色が変わる順を適切に述べた文賞を選ぶ」問題の正答率は91.2%で、市の平均より11ポイント高い。<br>●「湯気について適切に述べた文章を選ぶ」問題の正答率は8.8%で、市の平均より20ポイント低い。                                                                                          | ・体験的な活動を通して、関係付けて考えたりまとめたりした内容について、自分の言葉で記述する力を育てていく必要がある。今後も、体験的な活動を取り入れ、理解を深めるとともに、キーワードを使って自分なりに分かったことをまとめる学習を継続的に行っていく。<br>・科学的根拠と実生活とを関連付けた授業を展開できるように、指導の改善を図っていく。                                               |
| 「生命」を柱とする領域    | 校内正答率は75.4%で、市の平均より4.7ポイント低い。<br>○「人の手や腕の骨と鳥の翼の骨について、骨の数に着目して差異をこたえる」問題の正答率は86.0%で、市の平均より4.7ポイント高い。<br>●「骨の働きを説明した文章をすべて選ぶ」問題の正答率は26.3%で、市の平均より18.2ポイント低い。                                                                                              | ・実物を観察できる環境を整えたり、映像資料を活用したりすることで、生き物の実態を正しく理解できるように指導する。<br>・季節ごとに植物を観察する際に、観察の視点を与え、記録を蓄積したり前回との変化を見える化したりして、季節と植物の様子を理解できるようにする。                                                                                     |
| 「地球」を柱とする領域    | 校内正答率は53.1%で、市の平均より3.3ポイント低い。<br>○「1回目の観察から2時間後に月が見える位置を示した図として適切なものを選ぶ」問題の正答率は79.0%で、市の平均より8.5ポイント高い。<br>●「水が水蒸気になって空気中に出ていく現象の名称を答える」問題の正答率は40.4%で、市の平均より19.6ポイント低い。<br>●「窓に結露が発生する理由と、結露の水滴がつく場所について述べた文章に当てはまる語句を選ぶ」問題の正答率は19.3%で、市の平均より11.2ポイント低い。 | ・科学的現象を自分の言葉で表現するために必要な用語を身に付けられるよう、キーワードを提示したり、身の回りにある様々な場面と結びつけたりしながら、定着を図っていく。<br>・体験的な活動を通して確かめた事項や、そこから関連付けて考えたり資料を使って調べたりした事項について、図や表を用いて関連付けてまとめるなど、実感を伴った理解を促していく。                                             |

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年 児童質問調査

|                                                                                                                                                                                                                    |                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| ★傾向と今後の指導上の工夫                                                                                                                                                                                                      | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの |
| ○「自分はクラスの人役に立っていると思う」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が71.2%で、市の平均より6.1ポイント高い。また、「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が96.6%で、市の平均より1.9ポイント高い。学級や学校のために進んで仕事に取り組んでいることがうかがえる。今後も、自己有用感を高め、係活動や委員会活動に積極的に取り組めるよう支援していく。 |                          |
| ○「学校の宿題はやりたくなる内容だ」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が66.1%で、市の平均より6.5ポイント高い。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が84.7%で、市の平均より1.4ポイント高い。今後も、児童が楽しく取り組めるような課題を工夫していきたい。                                                  |                          |
| ●「自分の行動や発言に自信をもっている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が52.5%で、市の平均より10ポイント低い。また、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦している」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が74.5%で、市の平均より1.4ポイント低い。今後は、小さな成功体験を積み重ねて、自分に自信をもって様々なことに挑戦していけるような学習活動の工夫をしていきたい。                  |                          |
| ●「毎日同じくらの時こくにねている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が72.9%で、市の平均より5.1ポイント低い。また、「早ね、早起きを心がけている」の質問では、児童の肯定的な回答の割合が67.8%で、市の平均より8.3ポイント低い。保健だより等で啓発を行うなど、基本的な生活習慣を身に付けられるように、学校と家庭で連携していく。                                           |                          |

## 宇都宮市立上河内中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                  | 取組の具体的な内容                                  | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                |
|-------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学び合いを通した、コミュニケーション能力の向上 | 自分の考えをもたせるための支援の工夫と、自分の考えを表現する場の設定や学習形態の工夫 | 「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均より4年生が15.2ポイント、5年生が9.8ポイント上回った。しかし、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均と同等か1.5ポイント下回っていた。 |